

平成30年度 市町村議会議員研修 [2日間コース]

「議会改革を考える

～先進事例に学ぶ住民参加・情報公開～」

研 修 報 告 書



研修日時 2018（平成30）年11月5日・6日

研修場所 全国市町村国際文化研修所（JIAM）

主 催 公益財団法人 全国市町村研修財団

全国市町村国際文化研修所

報告者 東野 敏弘 ・ 吉井 敏恭

講義内容

11月5日（月）

12時40分～13時

開講式

池田憲治学長挨拶
（73名の参加者）
日程説明・諸注意

13時～14時30分

講義①

「 地方自治の現状と議会改革の動向 」

早稲田大学名誉教授 北川正恭氏

（主な講義内容）

- ・ 地方議会の役割の移り変わりを、歴史的背景をもとに説明される。
 - 1995年－阪神淡路大震災、地方分権推進法
 - 1999年－地方分権一括法
 - 2002年－政務調査費ができる
 - 2014年－地方創生
- ・ 地方議会の役割
 - 行政の監視機関であり追認機関になってはいけない。
 - 住民の声を代弁する機関である。
 - 条例提案や政策提案ができるため、政務活動費が必要である。
- ・ 議会全体の活動をする必要がある。
 - 議長選の立候補制、議会事務局の強化
 - 目標（マニフェスト）を持つことで政策が一致する。
 - i P a dの利活用による情報共有。
- ・ 議会事務局の強化（人員増・人材育成等）が必要。
- ・ 「議会が信頼されない限り、地方創生は出来ない」、市民の代弁者として頑張ってほしいとエールを贈られる。

14時45分～15時30分

講義②

「 『議会改革度調査』 から見る地方議会 」

早稲田大学マニフェスト研究所

事務局長 中村 健 氏

(主な講義内容)

- ・ 時代の変化
 - 1985年－プラザ合意（為替レート安定化の合意）
民営化『官から民へ』（JTB・NTT）
 - 1995年－Windows95
 - 2000年－地方分権
 - 2006年－夕張市の財政破綻、財政健全化法
 - 2014年－地方創生（地域間競争）
- ・ 自分の自治体の基礎知識チェック
(人口総数・職員数・予算額・経常収支比率・出生数・死亡数・転入人口・
転出人口・交流人口・起業数・公園数・橋梁数・街灯防犯灯数・道路総
延長距離・介護保険料・ごみ収集量・犯罪交通事故火災発生数等)
- ・ 議会の役割の変化
立法機関としての決定権、政策提案、民意の集約
- ・ 「議会改革度調査」から見る先進議会の議会改革事例

15時45分～17時30分

事例紹介・演習

「 住民参加・情報公開を進める取り組み① 」

北海道栗山町議会 議長 鶴川 和彦 氏

早稲田大学マニフェスト研究所 事務局長 中村 健 氏

(主な講義内容)

- 栗山町議会の取組
- ・ 議会改革の背景にあった社会的背景
増す議決責任と問われる説明責任。情報公開と住民参加の必須化。
- ・ 議会基本条例前の住民参加の状況

情報公開条例（議会試案）策定、議会ライブ中継（H14）、議会報告会（H17）、
参考人制度の積極的活用、関係者との意見交換

- ・ 議会基本条例制定後
住民参加機会の拡充 一般会議、多様な意見交換の場、議会モニター、
議会報告会（毎年1回12会場約200人以上の参加）
- ・ 「単純な多数決ではない。合意形成を求めて。」

18時から

参加者による交流会

11月6日（火）

9時～10時45分

事例紹介・演習

「住民参加・情報公開を進める取り組み②」

会津若松市議会 議長 目黒 章三郎 氏
早稲田大学マニフェスト研究所 事務局長 中村 健 氏

（主な講義内容）

- ・ 議会の役割、機能 ①行政の監視機能、②政策立案機能（議員として、議会として）③民意吸収機能
- ・ 議会制度検討委員会への市民委員の参加
- ・ 正副議長選挙の立候補制
- ・ 市民との意見交換会 15地区、分野別に行う
- ・ 政策サイクル
意見交換会⇒意見の整理・分類⇒分類ごとに委員会分担⇒委員会はテーマにそって調査・先進地視察・有識者からの意見聴取⇒市行政への政策提言
- ・ 今後の検討課題
 - ① 住民参加 本会議場での市民スピーチの実施、政策サポート制度、議会制度検討委員会の市民委員の増員
 - ② 議員間討議の充実 一致点をどう見出すか。
- ・ 市長と市議会の『善政競走』

- ・ 議員個人の力を「線香花火」とすれば、議会の塊の力は「打ち上げ花火」。議員個人の活動は大切であるが、議会全体としてまとまることが重要。

11 時～11 時 40 分・12 時 40 分～15 時

演習

「 各議会における今後の議会改革推進の検討 」

早稲田大学マニフェスト研究所 事務局長 中村 健 氏

(主な演習内容)

- ・ 効率的な会議の行い方について学ぶために、「議会の広聴活動のさらなる充実策」をテーマに、ダイアログ（自分の意見を伝え、相手の考えを理解し、互いに協力して解決策を導くためのコミュニケーションの方法）の手法を用いた演習を体験する。
- ・ どのように議員間討議を行うか、どのような手法を用いれば会議の成果が挙がるかを学び。
- ・ 演習は小グループ（6名）に分かれて実施し、最後に討議結果を発表する。

15 時～15 時 15 分

閉講式・事務連絡

平成 30 年度 市町村議会議員研修

『 議会改革を考える

～先進事例に学ぶ住民参加・情報公開～』に参加した所感

東野 敏弘

西脇市議会は、日経グローバルの議会活力度調査で、全国 1 位の高い評価を受けました。議会基本条例は、私が市議会議員に就任する前にすでに制定され

ていたこともあり、議会改革について、十分自分のものになっていないとの思いがあり、今回の研修を受講しました。

北川正恭氏の迫力ある講義は、私の心に強く響きました。2012年に政務活動費が認められ、2014年に地方創生が叫ばれるようになりました。現在の議会の役割は、執行権に対する監視とともに、政務活動費を活用し条例提案や政策提案を行うことが求められるようになった。そのため、議員は住民の声を代弁し、行政の追認議会になってはいけないと強く訴えられました。そして、『議会が信頼されない限り、地方創生は出来ない』と結ばれました。

中村健氏は、意見交換会で出される意見の内容によって2つに分け、政策サイクルについて分かりやすく説明されました。

- ① 意見交換会での住民の意見⇒今やっている施策の不满⇒現状分析を行う
⇒問題点を明らかにする⇒解決方法（政策）の提案
- ② 意見交換会での住民の意見⇒住民の要望⇒未来への提案⇒先進地視察・勉強
⇒自分の自治体にあった施策を見つけ出す

政策サイクルを行い、政策提言を行っていきけるかどうか、今後市民の議会に対する信頼度の向上につながってきます。地方議会が地域の役に立つと思われるには、成果を上げることが必要であり、そのための具体的な行動や検討方法を変える必要があると話されました。

西脇市議会では、年2回の『議会と語ろう会』や高校生版議会報告会で出される市民・高校生の意見を、政策化する取組を始めました。会津若松市議会をはじめ全国の先進市町議会では、政策サイクルの取組を行っている。全議員の共通認識となって、政策サイクルに取り組む必要があると感じました。

また、中村氏は、議員間討議の大切さを力説されました。議員間討議は、意見を出し尽くす事であり、議員間討議は対話であるとの認識が大切だと力説されました。また、議員間討議は、ディベートではなく、どう一致点を見出すのが大切であり、そのために何を深掘りするかが大切であるとも話されました。議員個人の力量も高め、自分の考えをはっきりと述べ、話し合いのテクニック、ファシリテーションのスキルを向上させることが求められます。今後の西脇市議会の委員会運営において、参考にしたいと考えました。

会津若松市議会の目黒議長の事例報告は、先進市議会の取組であり、具体的に分かりやすい内容でした。市民意見を起点とした「政策リサイクル」の流れは、私自身の頭の整理になりました。また、市民の声を政策につなげた具体例として、除排雪問題や鶴城小学校移転計画の見直し、城前市営住宅の建て替え

などにつなげていったことがあげられ、説得力がありました。

そして、今後の検討課題として、政策サポート制度や議会制度検討委員会への市民委員の増員等を掲げられ、たゆまぬ議会改革に取り組もうとする姿勢を示されました。

最後に、議員個人の取組とともに、議会が一つにまとまることで市民の付託に応えることができ、大きな力を発揮すると話されたことは説得力がありました。

今回の研修『議会改革を考える』は、私自身にとって、大変刺激的な内容であり、今後の委員会審査や議会活動において、活かしていきたいと考えています。

平成 30 年度 市町村議会議員研修

『 議会改革を考える

～先進事例に学ぶ住民参加・情報公開～』に参加した所感

吉井 敏 恭

最初に、早稲田大学名誉教授 北川正恭氏の講義を受けた。オウム真理教による地下鉄サリン事件などの時代背景を織り交ぜながら、わが国における中央集権から地方分権への変遷についての話がありました。東京一極集中、農業者後継不足の要因についても納得のいく内容でありました。

地方創生の時代にあって、議会の果たす役割は大きい。監視・チェックする機能、政策提言・政策立案する機能、民意を吸収する機能が重要であり、議長を中心に、議会として目標をもつことが大切であることを学んだ。北川正恭氏の話は大いに参考になり、勇気づけられた。感激。

早稲田大学マニフェスト研究所 事務局長 中村 健氏の講義を受けた。全国最年少首長として 27 歳で徳島県川島町長となり、議員や職員から歓迎されない初登庁に始まり、苦難の中、2 期務めた経験から、理念や政策を共有しながらすすめていく柔軟で戦略的なマネージメントが必要であると話された。

意見交換会で出される意見の内容による政策サイクルについての説明がなされた。後のダイアログにおいて、相手の意見を引き出す、話せる環境をつくるための方法としてボールリレー等を経験した。

『議会と語ろう会』のワークショップのファシリテーターとして、参加者の意見を引き出せない場合などに是非、活用したいと思った。

北海道栗山町議会 鶴川和彦議長の講義を受けた。議会改革の背景、議会基本条例の特徴等の説明を受けた。町民から議会運営に関し提言を聴取する「議会モニター」の設置については西脇市においても検討すべきと思った。

2日目、会津若松市議会 目黒章三郎議長の講義を受けた。住民参加・情報公開を進める取組について説明を受けた。市民との意見交換会から政策につなげた事例として、除排雪問題（予算の増額と一部私道除雪の実施）、鶴城小学校移転計画（市は計画を見直し現地に建て替え）が紹介された。市民に寄り添った議会のあり方を感じた。また、議会をより身近な存在にと全戸に配布された「見て 知って 参加する ための手引書」（冊子）が参加者に配布された。

西脇市においても同様の手引書を作成して『高校生版議会報告会』や『議会と語ろう会』に活用できれば、市民にとって議会が身近なものになると思われる。

最後にグループに分かれて「議会の広報活動のさらなる充実策」をテーマにダイアログ（自分の意見を伝え、相手の考えを理解し、互いに協力して解決策を導くためのコミュニケーションの方法）が行われた。私は4班で福島県鮫川村議会 関根政雄議員、富山県朝日町議会 清水真人議員、静岡県東伊豆町議会 山田直志議員、京都府南丹市議会 塩貝孝之議員、福岡県筑紫野市議会 辻本美恵子の6名で意見交換をした。西脇市「議会だより」は縦書きを横書きに変更したところであるが、同じ班の5市町は全て縦書きでありました。全て議員が編集に関わっており、広報広聴特別委員会に所属する本職と同様の悩みが共有できた。いかに「読んでいただけるか」大きな問題である。

今回の研修は、北川正恭氏に感激したこと、「見て 知って 参加する ための手引書」（冊子）に出会えたことに感謝であります。